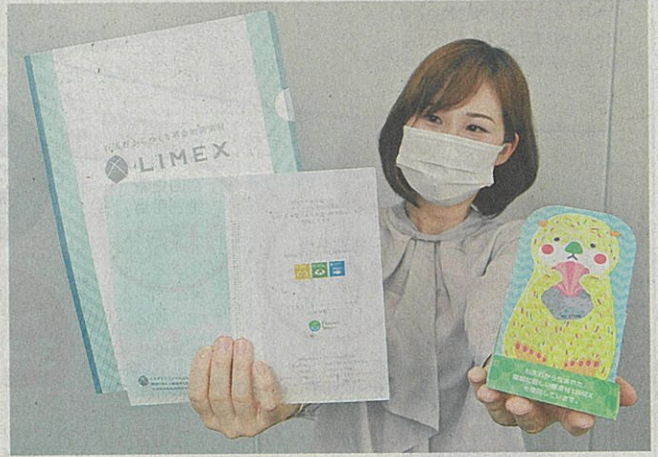
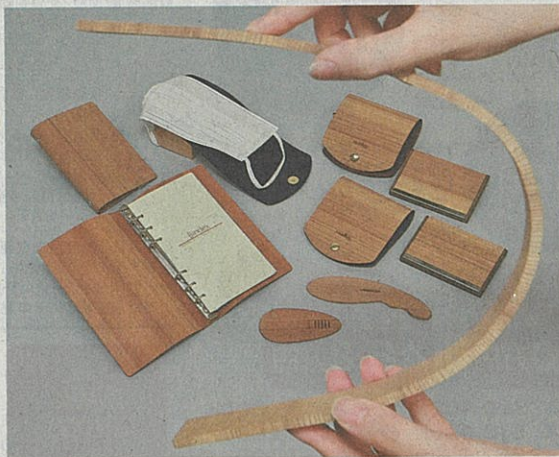


木や石素材で脱プラ

木材曲げた名刺入れ ■ 石灰石由来ファイル



⑤石灰石由来の素材を使ったファイルなどの商品 ■ 名古屋市守山区の大同至高で ⑥圧縮加工で曲がるようにした木を使った商品 ■ 愛知県飛島村の名古屋木材で

SDGs意識 東海の企業で広がり

堅い木材や鉱物を柔らかく変えた新素材を、プラスチックや紙の代替として製品に活用する取り組みが、東海地方の企業でも広がっている。海洋汚染や地球温暖化の国際問題を解決しようと近年、「脱プラスチック」の流れが加速。国連の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を打ち出す企業が増えていることも追い風に、環境負荷が少ない製品として需要の掘り起こしを狙う。

（竹田弘毅）

名古屋木材（名古屋）の工程を経ることで加工前の木目に沿ってゴムのよう

にしたる木材「曲がる木」を使った製品開発に注力する。クラウドファンディングで資金を調達し、しなやかに曲がる木をカバーにした名刺入れを昨年九月に発売。新型コロナウイルス拡大を受けて今年二月に出したマスクケースは、月間百個を上回る受注がある。

曲がる木は、国産のスギやヒノキの角材をプレス機に入

れ、水蒸気の熱で柔らかくし圧縮。その後、冷やして固める前に圧力を少し抜き、柔軟性を高める。これは網目状に並ぶ木の細胞壁が一度つぶれることで伸縮しやすくなるという性質を利用したもの。こ

ているため、二酸化炭素（CO₂）排出につながる石油を節約できる。薄くすると紙のように柔らかな質感で、ぬれてもふやけづらいと、飲食店のメニュー表にも重宝される。ノベルティ用品を手掛ける印刷会社「大同至高」（名古屋）では、SDGsを経営に採用する企業が増えた一

二年ほど前から、ライメックス製品の受注も増加した。ファイルなどの素材として提案すると、割高でも主に大企業が選ぶように。担当者は「SDGsマークで、環境に配慮した企業とPRできるためではないか」と分析する。

ライメックスは主に名刺で使われ、全国で四千九百社超が採用。製造業が集積する東海地方の営業を請け負う広告会社「新東通信」（同）は、自動車の外装部品や建築材などの材料としても売り込みを強化している。同社の担当者は「石灰石は国内で自給自足でき、枯渇の心配がない。広く使われればCO₂削減の切り札になる」と意気込む。